



「帰還」とはなんなのか 避難民の調査から考える 「帰るべき場所」とは

激動期南北の Sudan を現地で体験

専門は文化人類学と地域研究、専門地域はアフリカです。北東アフリカの Sudan 共和国、南 Sudan 共和国に暮らす人々の生活や宗教について調査・研究を続けています。

もともと一つの国だった南北 Sudan は長い間内戦をしており、多くの人が住む場所を失い難民となりました。そうした中、2011年に Sudan 共和国から南 Sudan 共和国が独立。2011年から2012年にかけて、まさに Sudan が大きく変わろうとしていたとき、私は調査のため現地に長期滞在していました。

同じ国といっても、北（Sudan 共和国）と南では言葉も文化も宗教も生活も違います。南 Sudan の独立を受け、北に逃れていた人たちは南へと戻ってきました。しかし内戦は約30年にわたっていました。両親は南 Sudan 出身だけれど生まれも育ちも北 Sudan という人たちもいます。そんなさまざまな背景を持つ人々に触れ、「人々にとって『帰還』とは何か」が私の主な研究テーマになっていきました。



研究結果が難民帰還支援の一助になれば

文化人類学の研究は、参与観察（長期にわたり一緒に暮らしながら観察すること）が主となります。南 Sudan にルーツを持つクの人々と過ごす中で、難民にとって「帰還」とは、もともといた場所に戻るのではなく、それぞれが「帰るべき場所」をつくり、そこに向かう行為ではないかと私は考えました。その場所の一つではなく、その人の置かれた状況によっても変化していくものです。

研究結果は学会や論文などで発表してきましたが、例えば世界の難民の帰還支援を行っている国際機関などにこういった現実があることを伝え、支援の参考にしてもらうこともできるのではないかと考えています。

文学部 社会文化学科
准教授

とびない ゆうこ
飛内 悠子

専門地域はアフリカ（南北 Sudan、ウガンダ）。2005年よりたびたび Sudan を訪れ、現地の人々とともに過ごしながら彼らの生活や宗教について調査・研究をしている。2018年より盛岡大学文学部准教授。

Episode

長い時には1年に及ぶこともある現地調査。 Sudan ってどんなところ？

南北 Sudan に興味を持ったのは、学生時代のアラビア語の先生が北 Sudan 出身だったことから。北 Sudan はグレープフルーツやハイビスカスティーなどが特産で、南 Sudan は内戦の原因のひとつにもなりましたが石油産

出国でもあります。

Sudan で好きな食べ物はピーナッツペースト。パンにつけたり、シチューに入れたりもします。オクラもよく食べます。オクラは民族語で「モラン」というんですよ。

